

# 統計スポット情報

NO. 148

2020. 9. 11

福井県総務部政策統計課

## ～生涯現役時代へ～生活を楽しむ福井のシニア世代～

9月15日は敬老の日です。国民の祝日に関する法律には「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う。」とあります。ところが、福井県には、「社会につくして」、そして、今も現役で活躍している高齢者の方がたくさんおられます。

今回は、統計から福井県の高齢者の方の今を探ってみたいと思います。

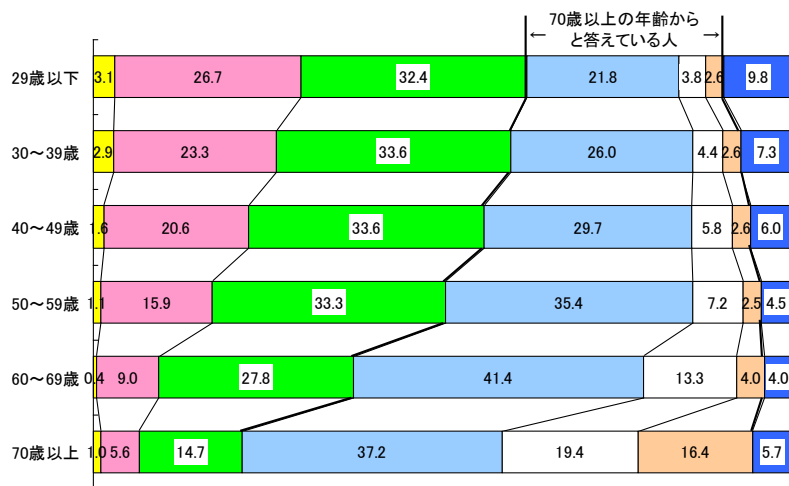
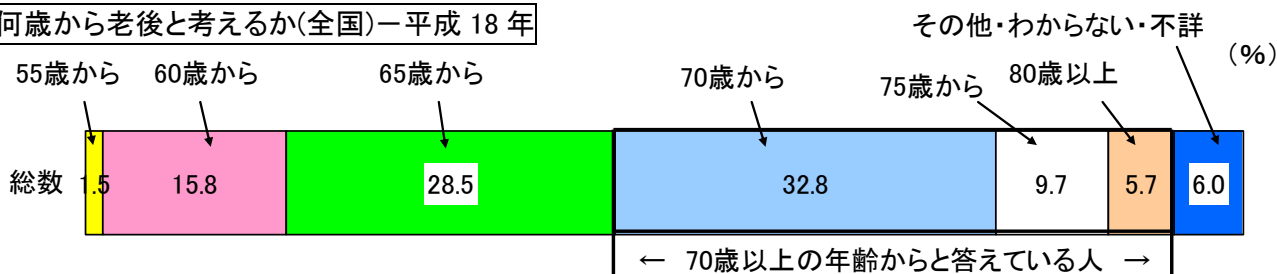
### 【老後とは何歳からか】

みなさん、老後は何歳からだと思いませんか？人口統計では、65歳以上を「老年人口」としています。ところが、平均寿命が伸び、65歳以上でも元気に活躍している人が増えている現在、「老後」は何歳からと考えられているのでしょうか？

### もはや60代は老後ではない？

- ・平成18年の厚生労働省の全国調査では、「70歳から」が32.8%と最も多く、次いで「65歳から」(28.5%)となっています。5割弱の人が、70歳より高い年齢を老後と考えているようです。
- ・年齢階級別にみると、70歳以上の年齢からと答えている人は、29歳以下では28.2%、30代では33.0%、40代では38.1%、50代では45.1%、60代では58.7%、70歳以上では73.0%と、年齢が高くなるにつれて割合が高くなっています。
- ・また、60歳～69歳の方は、今を老後とは思わず、現役を自負している人が多いようです。

何歳から老後と考えるか(全国)ー平成18年



出典：平成18年高齢期における社会保障に関する意識等調査報告書(厚生労働省)



(参考)

「昭和57年度県民生活意識調査」(福井県)では、「65歳以上」が33.9%で最も多く、次いで「60歳以上」(25.2%)、「70歳以上」(22.2%)となっていました。また、平成17年に(財)福井県すこやか長寿財団が、満55～59歳の事業所勤務者に対して実施した『「団塊の世代」サラリーマンの生活意識アンケート』では、「高齢期(者)とは何歳ぐらいからだと思いますか」という設問では、「70歳から」が44%で最も多くなっています。

## 【高齢者の人口】

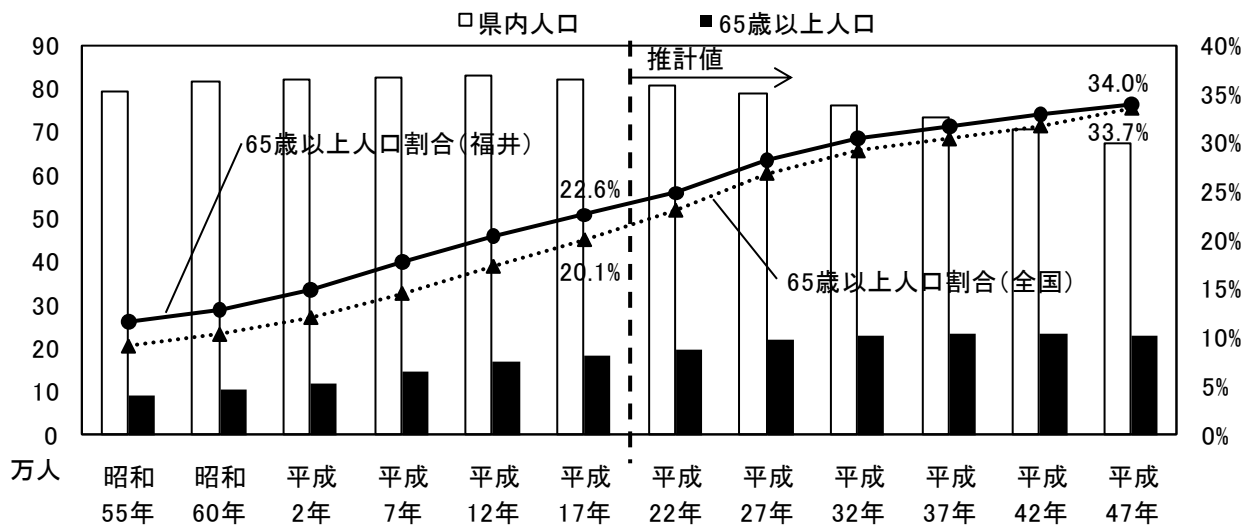
「高齢化」という言葉をよく耳にしますが、福井県には高齢者がどのくらいいらっしゃるのでしょうか。また、将来、高齢者の割合はどのくらいになるのでしょうか。

### 30年後には、福井県の人口の34.0%が65歳以上に

#### 65歳以上人口の割合は、福井県と全国で、ほぼ同じに

- ・平成17年の福井県の65歳以上人口は18.6万人で、福井県の人口(82.2万人)に占める割合は、22.6%となっています。
- ・30年後(平成47年)の福井県の65歳以上人口は23.0万人と推計されており、同年の福井県の人口(67.6万人)に占める割合は、34.0%となります。
- ・30年後(平成47年)には、65歳以上人口の割合が、福井県(34.0%)と全国(33.7%)で、ほぼ同じになります。

県内人口と65歳以上人口の割合



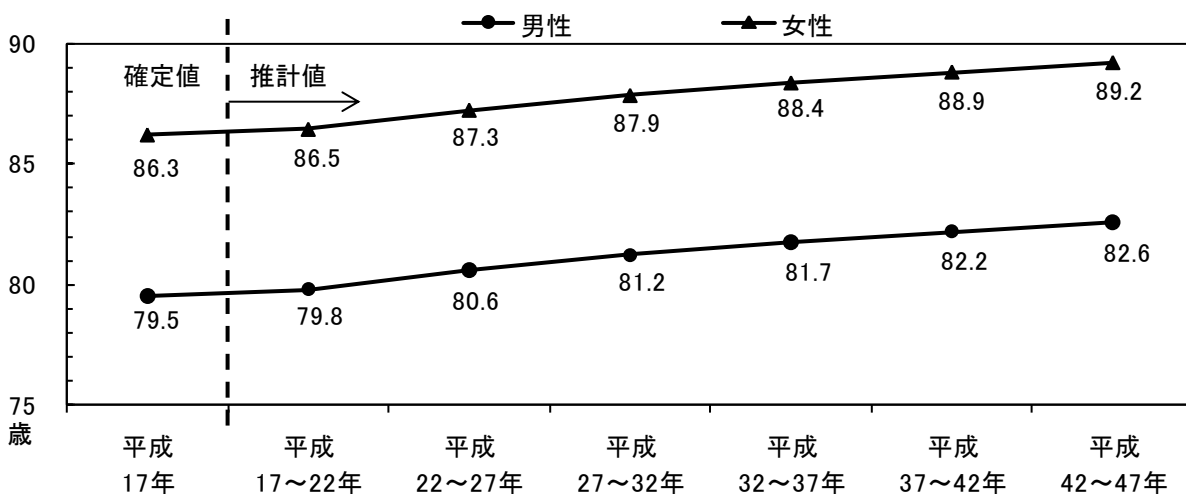
## 【将来の平均寿命】

次に、福井県民の将来の平均寿命は、どのくらいになるのでしょうか。

### 30年後、福井県民の平均寿命は、男性で3.1歳、女性で2.9歳のびる。

- ・平成17年の福井県民の平均寿命は、男性79.5歳、女性86.3歳となっています。
- ・30年後(平成42年～47年)の福井県民の平均寿命は、男性82.6歳、女性89.2歳と推計されています。

福井県民の平均寿命(推計)



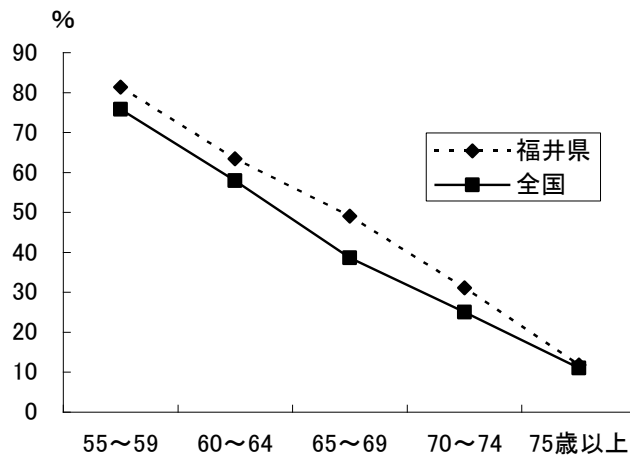
## 【高齢者の就業状態】

それでは、次に、今年7月3日に公表された「平成19年就業構造基本調査」から、福井県の高齢者の就業状態をみてみましょう。

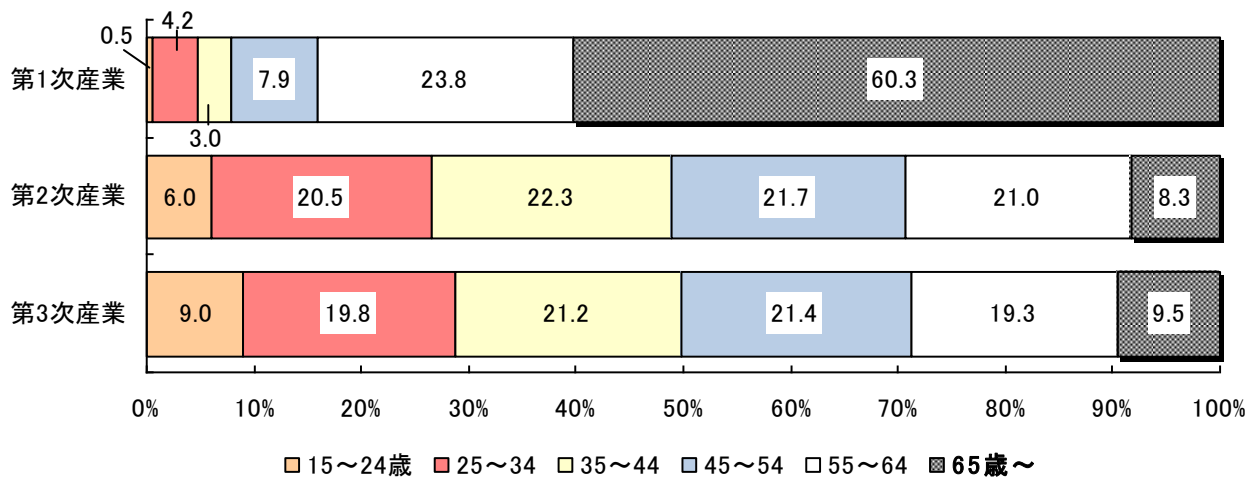
### 現役期間の長い福井人、福井を支える高齢者

- ・65～69歳の年齢階層では、有業率が全国1位になっています。(福井 49.0%、全国 38.6%)。
- ・産業別に見ると、第1次産業では有業者の約6割が65歳以上となっています。
- ・65歳以上の有業者の産業構成比は、第1次産業、第2次産業で全国より割合が高くなっています。

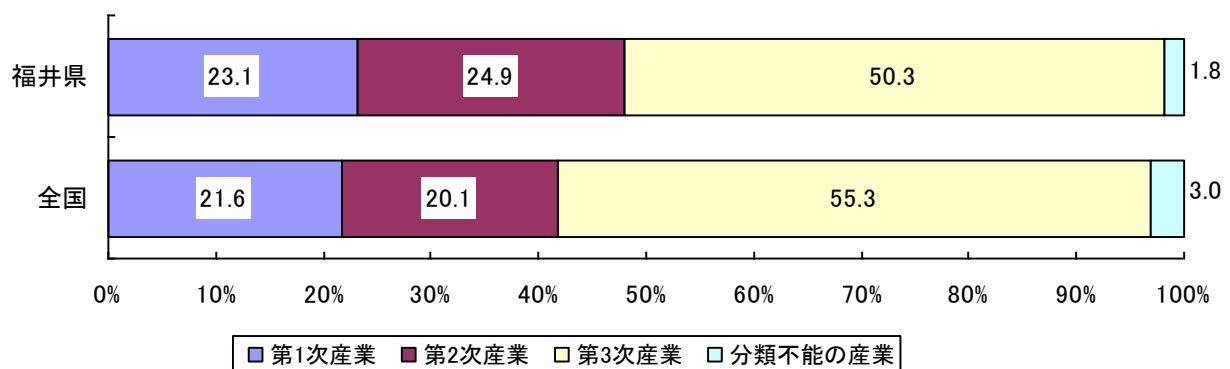
年齢階層別の有業率(全国、福井県)-平成19年



産業別有業者数の年齢構成比率(福井県)



65歳以上有業者の産業比率



## 【高齢者の日常生活】

さて、次は、「平成18年社会生活基本調査」から高齢者の1日の過ごし方をみてみましょう。

### 近年の高齢者は、仕事もこなして、家庭での生活も大事にしている

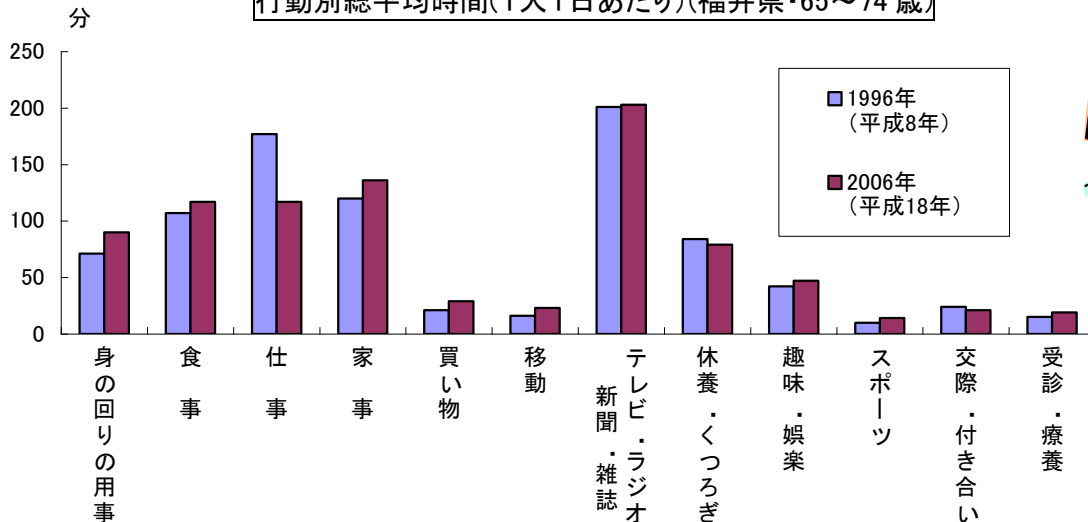
- ・平成8年と平成18年を比較すると、65～74歳の高齢者では、2次活動※の時間は43分減少しましたが、1次活動※の時間は17分、3次活動※の時間は26分増加しています。
- ・1次活動の中では、「身の回りの用事」や「食事」の時間が増加しています。
- ・2次活動の中では、「仕事」の時間は減少していますが、「家事」など家庭に関する時間は増加しています。

1日の活動別総平均時間(福井県・65～74歳)

1996年 (平成8年)	1次活動 11時間17分	2次活動 5時間41分	3次活動 7時間2分
2006年 (平成18年)	1次活動 11時間34分	2次活動 4時間58分	3次活動 7時間28分

※「1次活動」…睡眠、食事など生理的に必要な活動  
 「2次活動」…仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動  
 「3次活動」…上記以外の各人が自由に使える時間における活動

行動別総平均時間(1人1日あたり)(福井県・65～74歳)



出典「平成18年社会生活基本調査」(総務省)

### 《敬老の日の由来》

1947年、兵庫県多可郡野間谷村(現在の八千代町)の門脇政夫村長が提唱した「としよりの日」が始まりとされています。当時、村では「老人を大切にし、年寄りの知恵を借りて村作りをしよう」という主旨のもと、1947年から農閑期に当り気候も良い9月中旬の15日を「としよりの日」と定め、敬老会を開くようになりました。これが1950年からは兵庫県全体で行われるようになり、1954年には国民の祝日として制定され、全国で祝うようになりました。

このため、「母の日」のように外国から輸入された記念日と違い、日本以外の諸外国にはないそうです。

### 《昭和を知ろう!》

福井県立歴史博物館では、7月26日(土)～11月3日(祝)に「昭和大博覧会」を開催しています。昭和戦前期から戦後の高度経済成長期まで、高齢者の方々ががんばった「昭和」という時代を振り返る特別展です。敬老の日に、身近な高齢者の方と博物館を訪ね、昔の生活や体験したことについて、お話を伺いするのも良いですね。